

脊柱管狭窄症、ヘルニア、スベリ症、変形性膝・ 股関節症など整形外科の痛み、シビレを 手術をせずに治療するAKA・博田法

2011年11月16日放送のNHK「ためしてガッテン」で、「腰痛の原因はMRIに写るヘルニアとは限らない」という説明がなされ、大きな反響を呼びました。では、一体何が痛みやシビレの本当の原因か？従来の整形外科とは全く異なる方法で、手術が必要と診断された痛みやシビレに有効なAKA・博田法とは

レントゲンやMRIに写る「異常」は必ずしも痛みやシビレの原因ではない

整形外科の痛みやシビレの診断はレントゲンやMRI等の画像診断が主流です。狭窄ヘルニア、脊椎のスベリや関節の変形（以下、まとめて「異常」があると、それを痛みやシビレの原因と考えま



変形はそのままでも痛みが消えることがある
変形性股関節症に対しAKAで治療後のレントゲン写真。股関節の痛みでほとんど歩けず、手術を考えていた。赤に比べ、痛みのある黄色の方が関節の隙間が狭く、変形が進んでいる。現在2ヶ月に1度のAKAで日常生活もほぼ痛みが無い。痛みの本当の原因はレントゲンに写る変形ではなく、関節機能障害であると考えられる。この様に手術をしなくても済む例は多い。

す。一般的な治療法で良くならないと、手術といわれることがあります。

しかし、ヘルニアが出ていても痛くない人がいる一方、出ているヘルニアを手術しても良くならない方が多いため、腰痛の原因はMRIに写るヘルニアではないことが考えられます。これは、ヘルニアだけに限らず狭窄、スベリ、膝や股関節の変形、軟骨のすり減り等の「異常」も痛みやシビレの原因ではないことが多いのです。

痛みやシビレの本当の原因は、 関節の機能障害

AKA 博田法以下、AKAの開発により、脊柱管狭窄症、ヘルニア、スベリ症、変形性股・膝関節症の痛みやシ

ビレの本当の原因は、多くが関節の中の動きの障害（以下、関節機能障害）であると判ってきました。一般の整形外科ではレントゲンやMRIで「異常」が写れば、それが原因と考えます。しかし、AKAで関節機能障害を治療すると、「異常」はそのままでも痛みやシビレが改善すること

があります。この場合、画像に写る「異常」が症状の原因ではなく、本当の原因は関節機能障害であると考えられます。

関節機能障害が原因の場合、手術で「異常」を治す必要はなく、また、手術をしても痛みやシビレの改善は期待できません。AKAで治療することで痛みやシビレ等の症状は良くなるでしょう。



MRI上はそのままでも、痛みが消えることがある
スベリ症で脊柱管狭窄症の75歳女性のMRI(左・2005年11月)。他院では手術をすすめられ、当院来院。AKAを行い3回目で痛みが消失、手術は不要となる。その後(2006年12月)、再度MRIを撮ったがスベリや狭窄はそのまま。つまり、痛みが「本当の原因」はスベリや狭窄ではなく関節機能障害であったと考えられる。この場合、MRIに写るスベリや狭窄は痛みが改善の見込めない。手術を決める前にAKAを受診する重要性を示す症例であった。

これは決して稀なことではなく、整形外科の痛みの原因は、関節機能障害が最も多いという学会発表もあるのです。

手術が不要になることが多い

当院には、大きな病院で狭窄、ヘルニア、変形性関節症等で手術が必要と診断された方、手術後も痛みやシビレが改善せず、困り果てた方が多数来院されます。手術が必要といわれた方もAKAで治療すると症状が改善し、手術が不要になることが多いのです(図参照)。一度手術をすると元には

戻りません。手術をする前に手術の要不要を診断するためにもAKAを受診すると良いでしょう。

AKAは熟練者に 受診を

AKAは月に1~2回、1回10~15分程度※、触れる程度の力で行います。高度な技術を要するため、技術が未熟だと正確な診断・治療ができません。AKAは熟練者を受診すると良いでしょう。

当院はAKAを中心に整形外科領域の痛みやシビレに特化して、26年間で3万件以上(1986年1月~2012年1月実績)の症例があります。

詳しくはホームページまたは、お電話でご相談下さい。

INFORMATION

診療科目: 整形外科、リウマチ科、リハビリテーション科

診療時間: 8:30~12:30/14:30~17:30

休診日: 日・月・木午後

〒171-0032 東京都豊島区雑司が谷2-4-1

TEL.03-3986-7889 完全予約制・自費診療

<http://www.nozomi-clinic-japan.com/>

院長 住田 憲是

東邦大学医学部客員講師 埼玉医科大学客員講師

※AKAは自費診療です。初診料1万1025円、AKAは9450円です